

調査成果 奈良市教育委員会では、令和3年3月8日から奈良市西大寺赤田町1丁目で大和中央道建設に係る発掘調査を実施しています。調査地の東側丘陵南斜面ではこれまでに16基の横穴墓が確認されており、陶棺が多く出土する赤田横穴墓群として遺跡登録されています。今回、新たに古墳時代後期から飛鳥時代にかけて築造されたと考えられる7基の横穴墓が確認されました。

「横穴墓」とは、丘陵斜面に横穴を掘り遺体を埋葬する玄室をその奥に築く古墳時代から飛鳥時代の墓の一形態です。奈良市の北西部では多数見つかっており、歌姫赤井谷横穴墓群・秋篠阿弥谷横穴墓群などが知られています。

赤田横穴墓群と出土遺物 横穴墓は棺を納める玄室と、丘陵斜面を溝状に切り通して築く墓道、その間のやや幅の狭まった通路状の羨道から構成されています。玄室は羽子板状の平面形が多く、羨道部分は土で塞いでいます。玄室はその形状から細長いもの（21号墓）、短いもの（19号墓）、中規模のもの（17・18・20号墓）の3種類があるようです。詳細は検討中ですが、時期差によって形態が変化している可能性があります。墓道は発掘区外に続くため全体形は明らかではありません。

【18号墓】 円筒形陶棺1基、木棺を安置するために4つの石を配置した棺台を確認しました。18号墓では少なくとも2回以上の埋葬が行われていると考えられます。副葬品として、棺台付近からは鉄鏃2点が出土し、円筒形陶棺の中からは鹿角装刀子1点と鉄鏃1点が出土しています。

【19号墓】 玄室から木棺の底板と考えられる板材が出土しています。その南側から6世紀前半頃の人物埴輪と朝顔形埴輪が出土しており、古墳から転用し玄室入口に立て並べられていたと考えられます。

【20号墓】 陶棺が出土していないことから木棺で埋葬を行っていた可能性があります。副葬品として、須恵器短頸壺1点・台付長頸壺1点・土師器椀1点が出土しています。

【21号墓】 陶棺1基、土師器長胴甕を使った蔵骨器1基、木棺を安置していたと考えられる2つの石を配置した棺台を確認しました。陶棺は玄室の西半に置かれていましたが、壊されて奥壁側にかためられていました。副葬品として、陶製の紡錘車1点・須恵器高杯1点・鉄鏃2点が出土し、長胴甕の中からは鹿角装刀子1点が出土しました。

【22号墓】 玄室が造られていないため、構築途中で放棄され埋葬はされなかったと考えられます。

【23号墓】 陶棺が出土していないことから、木棺で埋葬を行っていた可能性があります。玄室の大部分が壊されていますが、副葬品として須恵器台付壺1点・壺1点・杯蓋2点・埴瓶1点が出土しました。

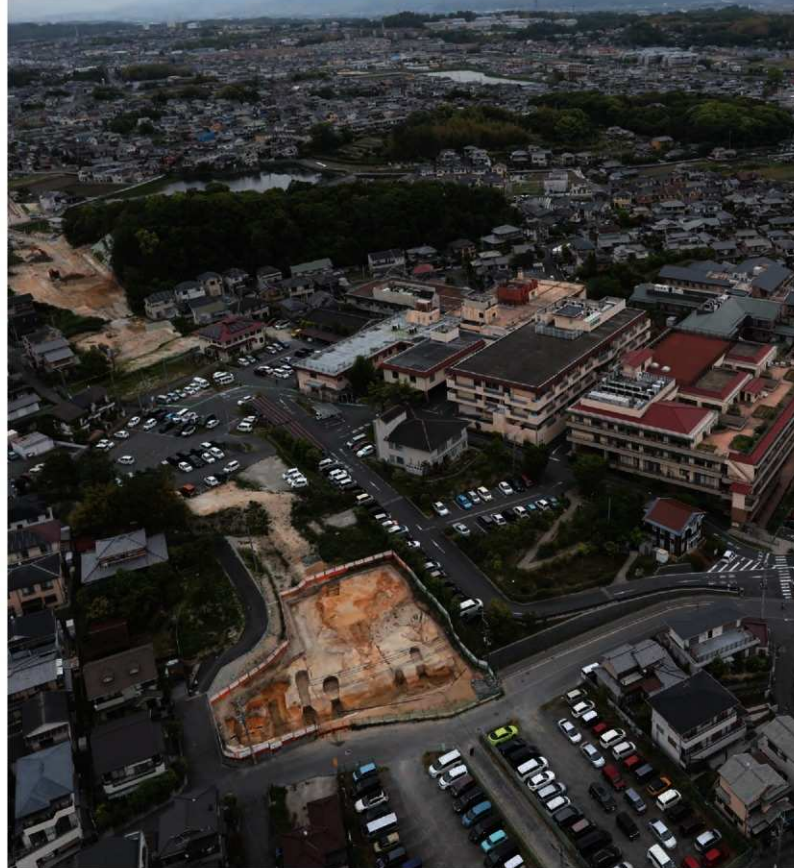


19号墓 棺蓋配置状況（南西から）

赤田横穴墓群 2021.7.17
奈良市教育委員会 文化財課
埋蔵文化財調査センター
〒630-8135
奈良市大寺西2丁目281番地
TEL：0742-33-1821

赤田横穴墓群

第6次調査

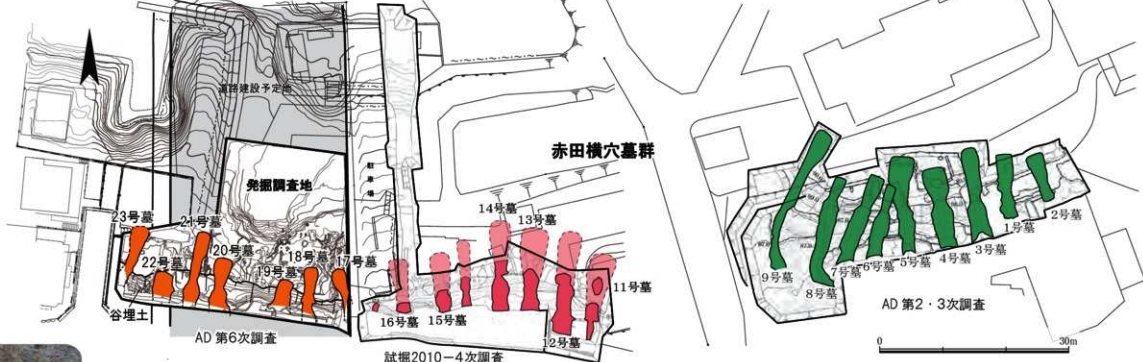


横穴墓全景（南西から）

奈良市教育委員会



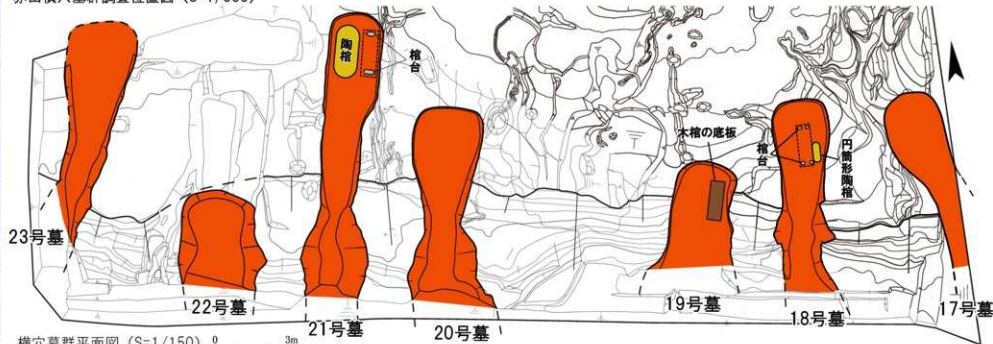
遺跡位置図 (S=1/20,000)



赤田横穴墓群調査位置図 (S=1/600)



21号墓 陶棺の直線配置と箱台 (南から) ※脚部塗装は青色



横穴墓群平面図 (S=1/150)



28号墓 遺物出土状態 (南西から)



20号墓 遺物出土状態 (南東から)



18号墓 円筒形陶棺と箱台 (南から)

円筒形陶棺 模式図
※写真は奥が棺身、手前が棺蓋